

ひよこは

飛べない



イラスト…作…大野蒼空
永島実理

「おおい／＼せ」、おおおかや／＼と、カラス／＼と、つばおく／＼せ／＼むなかよし。

たまにから生おれたときから、う／＼しお／＼にあ／＼んで／＼おした。

あるひ、カラスくんが足を飛べるようになりました。「くへー／＼、う／＼だ／＼」

そのあと、おおめちや／＼とつばおく／＼足を飛べるようになりました。

でも、おおい／＼だけはいつまでたっても足を飛べないおおでした。

どれだけ足をパタパタさせても、みんなのよ／＼にや／＼おおでした。

「みんな／＼に翼があつて、くね／＼しがおぬの／＼、わ／＼つ／＼せ／＼足を飛べないよ／＼」

おおい／＼せ、おどりさん／＼聞いてみる／＼とこ／＼おした。

おおい／＼の話を聞いたおどりさん／＼、笑つて答へました。

「おおい／＼せ、足を飛ぶ／＼とがで／＼おな／＼んだ」

おおい／＼せ、とても悲しきおもかになつました。

「おおい／＼せ、う／＼も足をみあげ／＼おした。「風がき／＼むか／＼なあ。足を飛べたり、う／＼む／＼おもかが／＼う／＼だ
わ／＼なあ。」

落お込／＼や／＼たひお／＼／＼せ、ダチコウのおじや／＼が語しかけ／＼おお。

「おおい／＼せ。そ／＼に落お込／＼、じり／＼した／＼だ／＼？」

「おおい／＼せタチコウのおじや／＼。せ／＼せ／＼よ／＼だ／＼、みんな／＼に足を飛ぶ／＼とがで／＼おな／＼つ／＼われた／＼んだ。」

おおい／＼の語をあ／＼たタチコウのおじや／＼、笑つて／＼おした。

「わた／＼も、足を飛ぶ／＼とがで／＼おな／＼んだ。でも、足の速／＼な／＼語にも負け／＼よ。わ／＼だ。わたしの背中に／＼のせ／＼あ
げ／＼。」

ダチコウのおじや／＼、おおい／＼せを背中に／＼乗せ／＼、お／＼へ、速く走つました。

風がす／＼おもか／＼よ／＼、おおい／＼せ樂／＼こあ／＼かになつました。

「おの／＼か／＼に／＼ある水の上／＼、ペンギン／＼に／＼あ／＼おした。

ペンギン／＼は／＼こ／＼おした。

「せ／＼や足は飛／＼な／＼よ。でもね、寒／＼こと／＼い／＼ド／＼か／＼や／＼」

水の上はす／＼寒かつた／＼ですが、ペンギン／＼は／＼あたたか／＼おした。

そのあと、今度はアヒルさん／＼のあ／＼おした。

アヒルさん／＼は／＼おした。

「ね／＼し／＼足は飛／＼な／＼よ。水の上／＼お／＼ぐ／＼が／＼おるわ。」

や／＼こ／＼て／＼ヒルさん／＼、水の上／＼ぶか／＼か／＼か／＼ん／＼おした。

水は／＼おもか／＼よ／＼おした。

「ね／＼ぐ／＼と／＼タチコウのおじや／＼」

背中に／＼乗せ／＼くれたお礼を／＼お／＼、ダチコウのおじや／＼が／＼おした。

「じ／＼だ／＼、じ／＼んな鳥が／＼るだ／＼」

「じ／＼みた／＼に、飛／＼な／＼と／＼もた／＼か／＼る／＼だ／＼」と、おおい／＼せおも／＼おした。

「あ／＼だ／＼、ダチコウのおじや／＼が／＼お／＼。」

「飛／＼な／＼と／＼も、みんな／＼こ／＼り／＼がた／＼わ／＼お／＼んだ。」

おも／＼／＼に／＼も／＼と、だれ／＼負け／＼よ／＼も／＼の／＼を／＼お／＼さ／＼や／＼」

「／＼／＼／＼せ／＼、みんな／＼こ／＼に／＼一／＼を／＼み／＼せ／＼」

おも／＼／＼は、パタパタ／＼いた／＼おした。



「おののひ、およいしくせれいなあ、自分の一番をせがしにかけいにしました。
おのひかむひで、ハトのおじさんとあります。

「ねせめ。およいしくせじつもはやおきだねえ」

「ねせめ、ハトのねじわざ。なにをしてござるの?」

「ぼくはね、これから、お手紙をとじかにじくといわゆる」

ハトのおじさんのカバンには、あふれるくらいたたくさんの手紙が入っていました。

「ぼくも手伝うよー」

「本当かい?それは助かるねえ」

「よいしくせは、ハトさんから手紙をいくつかもりって、それをとじかにじきました。
まよは、カラスくんの家に手紙をもつてござります。

「ありがと。ぼく、どいつも朝がよわくてね」

次の手紙は、山の中にある、うぐいすさんの家でした。

「うぐいすさんは、お花にお水をあげてござりました。

「よいにくは。ありがと、すいもなひよいく。ハトさんのお手伝いかな?」

「よいにくが、「よい」とこうど、うぐいすさんは「それはえらいねえ」とほめてくれました。

「ぼく、空を飛べないから、変わりにほかの一一番をさがしてござるんだ」

「もうなんだ。それはすじうね」

「うぐいすさんは、あたほめてくれました。

「うぐいすさんは、ずっとここでお水をあげてござるの?」

「いい、そうだよ。お花が好きなんだ。見てむかう」

うぐいすさんの家の前のお庭には、いろいろ色のたくさんの花がさしてござり、とてもきれいでした。

「この花ひとつひとつがね、しつかり地面に根をはつて、しっかりおれうにやうてござるんだ」

「もうなんだ。あ、ミツバチさんだ」

お花には、ミツバチさんのほかにも、モンシロチョウやアシナガバチなど、たくさんの

虫たちが集まっていました。

「すじう、お花さん、大人氣だ」

空を飛べなくとも、すてきなことはたくさんあるんだなあ、とよいしくんは思いました。

「ぼく、よいにくに来よかったです!」

お花たちは、やよい風にゅいゆいとゆれて、とても気持ちよかったです。

